

全国連絡会だより

— 第13(終刊)号 —
 旧制高等学校昭和24修
 全国連絡会 会報



府立高



高知高



佐賀高



七高



武蔵高



姫路高



松江高



八高



学習院



福岡高



水戸高



五高



浪速高



静岡高



山形高



六高



富山高



大阪高



山口高



三高



北大予



浦和高



松山高



四高



新潟高



一高



成蹊高



台北高



東京高



松本高



二高



成城高



台北大予



城大予



旅順高



甲南高



広島高



弘前高

1960年代アメリカ長距離列車の旅

一高：渡辺 毅

私は1962年9月から1965年8月迄アメリカに留（遊？）学した。最初の2年間はIllinois大学だった。I-大はイリノイ州のど真中のtwin city “Champaign-Urbana” の両市にまたがっていた。

〈特急 California Zephyr〉

63年1月から1年間の間に数回の長距離列車旅行をした。1月末の或る日、私はシャンペインからシカゴ迄列車に乗り、夜サンフランシスコ行きの大陸横断鉄道に乗った。California Zephyrという名の特急列車だった。

（注：Zephyrは微風（そよかぜ）の意。ギリシャ神話の女神に由来するという。）

中部の大平原を夜中に走って、翌早朝デンバーに着いた。朝食のため2時間程停車することだった。昼前にColorado（Glenwood?）Springsに着いて昼食後Colorado Rockyに向

かう。日本では見られない雄大な雪景色だった。列車の中でスウェーデン人の女の子と親しくなった。私が一人で来ていると知ると、“You are pity”と言われたことを今も憶えている。ユタ州に入って間もなく暗くなり寝てしまったので、Salt LakeもNevada州も全く知らなかった。翌朝目を覚ました時はカリフォルニア州の州都サクラメントの近くを走っていた。昼過ぎに終点のオークランドに着いた。外は春の暖かさでマフラーもオーバーも不用な程であった。目的はアメリカ数学会の年会に出席するためだったが、出席したかどうか、記憶はない。San Franciscoで2泊ののち、帰りはシカゴまで南回りで行くことにした。

〈南回り横断鉄道の旅〉

昼頃シスコを出て数時間後にロスアンジェルス付近を通り、Arizonaに入る。州都Phoenixを囲む砂漠が延々と隣のNew Mexicoでも続いた筈だが、夜のため見えなかった。Albuquerque（注：アルブクークと読む）とSanta Feを通過すると、間もなくColorado州の南東角をかすめてKansasに入る。いつの間にか外は冬景色だった。3日目の朝(?)シカゴに着き、昼過ぎにシャンペイン駅に着いた。

アメリカの長距離列車に乗って驚いたことがいくつかある。1つはプラットホームが無く、地上から直接列車に乗り込むことだった。駅舎も貧弱で食堂もあまり記憶がない。2つ目は客車も気動車もやたらに大きくて、2等車(?)の席でも充分ゆったりとしていた。最後に（これは半年後に身をもって経験したことであるが）時刻表は全くあてにならないことである。

〈北回り横断鉄道の旅〉

63年の7月始め北回りの大陸横断鉄道で太平洋岸に向かった。シカゴを出てマジソン(Wisconsin州)を経て夕方ミネアポリスに着いた。高校同期大学で同級の渋谷泰隆君と久し振りに会った。彼は50年代の中頃からミネソタ大学に来ており、63年当時は準教授だったと思う。翌日ミネアポリスを出て車中泊のあとシアトルに着いた。シアトルから太平洋岸を南下して夕方サンフランシスコに着いた。夏休みは、前年からスタンフォード大学の客員教授をしておられた伊藤清先生(京大教授)のお世話で、9月始め迄客員研究員としてパロー・アルトに滞在することになっていた。8月始めに妻が3才の長女と0才の長男を連れて合流し、9月始め迄カリフォルニアで過ごした。日本食品も豊富で羅府漬けという白菜の漬物等も買うことが出来た。9月上旬にイリノイに戻る迄の間、伊藤先生御夫妻には限りなくお世話になった。

〈再びのCalifornia Zephyr〉

前述のCalifornia Zephyrのことが忘れられず、9月10日頃の寝台車を予約した。当日伊藤先生に発車駅のオークランド迄送って頂いてお別れしたあと、異常な情報もたらされた。発車が遅れて夜の10時頃になるというのである。途方に暮れたが、大学で同級の小林昭七君がC-大Berkeley校の準教授をしていたので電話したら、迎えに来てくれて出発迄彼の家で休ませてくれることになった。寝台車の個室は中々立派でシャワーもついていて、一家4

人には十分な広さだった。ルームサービス等はなく、私が食堂車との間を往復して食事を運んだ。出発時間の遅れでシカゴに着いたのは真夜中、朝迄車中泊ということになった。翌日の午前中にシャンペイン駅に着いたが、そこから自宅迄どうやって帰ったか記憶がない。多分日本人会の誰かが迎えに来てくれていたのだと思う。

〈南北縦断の旅〉

64年の1月末私は南北縦断の長距離列車に乗ることになった。マイアミで行われるアメリカ数学会の年会に出席するためであった。午後早くシャンペイン駅でシカゴ発マイアミ行きの特急列車に乗った。イリノイーセントラル線でセントルイス迄、そこからニューオーリンズ迄はミシシッピー川に沿って南下、カリブ海を右に見てフロリダという径路だった、翌日の夕方マイアミに着いた。海岸から遙か南に見える島らしきものがキューバだった。

以上が私の経験したアメリカにおける長距離列車の旅であるが、これらの路線はその後どうなったのだろうか。少なくとも60年代の終り頃迄はCalifornia Zephyrが走っていたことは友人の奥さんから聞いている。

最近では日本でもヨーロッパでも新幹線や国際列車による大量移動が花ざかりで、テレビでも屢々現れる。アメリカでの長距離移動や観光旅行は現在どうなっているのだろうか。

2016. 8. 10